

大学院 スペシャルコンサート

洗足学園 前田ホール

2021年3月20日(土)開演 15:00 開場 14:30



松元 宏康 松下 倫士 酒井 秀明 渡部 亨 大浦 綾子 大和田雅洋 水野佐知香 千葉純子 中 一乃 古川原裕仁



荒 麻子 松 稜 當仲 絵理 原 善伸 鈴木 大介 松尾 祐孝 江崎 昌子



鳥羽瀬宗一郎 石井喜久子 井手上達 赤塚 博美 櫻田 亮

出演：上記教員及び各コース大学院生

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

御挨拶

本日は大学院スペシャルコンサートにおいでいただきありがとうございます。

このコンサートは、ここ数年学外のコンサートホールで実施してまいりましたが、残念なことに昨年度は新型コロナウイルスの流行で中止せざるを得なくなりました。二年ぶりとなる今回は、感染防止対策の観点から学内の前田ホールで、お客様の人数も制限しての開催となりました。

今年一年、コロナの影響による様々な不自由さの中で、大学院生達は音楽への情熱を絶やすことなく、それぞれの研究テーマに向けて研鑽を続けてまいりました。その結果を本日まで披露できることは、音楽家を志す若者にとって何よりの喜びです。

このコンサートの特徴は何と言っても一流の演奏家である教授陣と同じステージで演奏できるということでしょう。大学院生にとってこの経験は何にも代えがたいものであり、これまでの研鑽の日々の成果を身を持って感じると共に、新たな目標を見つける機会になることと確信しています。

大学院生と教授陣による夢の共演を最後までごゆっくりお楽しみください。

洗足学園音楽大学学部長・大学院研究科長 小嶋貴文

PROGRAM

管楽器コース

★吉田 健人/・・・'Far-fetched'

★M.ラヴェル(松下 倫士編曲)/マ・メール・ロアより
「眠りの森」「パゴダの女王」「美女と野獣」「妖精の園」

弦楽器コース

★D.ショスタコーヴィッチ/弦楽四重奏曲第8番 ハ短調 作品110

休憩

ギターコース

★フィリッポ・グラニアーニ/
三台のギターのための三重奏曲 作品12より第一楽章アレグロ

和楽器

★松尾祐孝 / 《天空幻想Ⅱ》～篠笛と箏の為に (2021 / 初演)

ピアノコース

★R.ワーグナー(A.Deprosse 編曲)/楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より前奏曲
★R.ワーグナー(A.Heinz 編曲)/楽劇『トリスタンとイゾルデ』よりイゾルデの愛の死

休憩

打楽器コース

★Rhythmic Ceremonial Ritual / Zachary Cairns
★Sculpture in wood / Rüdiger Pawassar
★Knock and Click / 山本祐介

電子オルガン

★安彦善博/ TOCCATA

声楽コース

★L.ボッケリーニ/スターバト・マーテルより
I. Stabat Mater II. Cuius animam
III. Quae moerebat XI. Quando Corpus

管楽器コース

吉田 健人/'Far-fetched'

管楽器コース出演者

作曲・・・吉田 健人(院2)

指揮・・・松元 宏康(教員)

編曲、ピアノ・松下 倫士(教員)

フルート・・・酒井 秀明(教員) 渡部 亨(教員) 尾崎 ゆか(院2) 永田 博雅(院2) 前原 希美(院2)
LI HUAYU(院2) 府川 悠理(院1) 山崎 春奈(院1) 吉村 由望(院1)

オーボエ・・・三輪 桃子(院2) 持田 夏希(院2)

クラリネット・大浦 綾子(教員) 伊藤 仁美(院2)

サクソ・・・大和田 雅洋(教員) YU QINZI(院2) 五十嵐 蓮(院1) 澁谷 隆宏(院1)
XIAO QIANYI(院1) CHENG YI-CHIEH(院1)

トロンボーン・望月 稜香(院1) 松本 弥津希(演奏補助)

打楽器・・・石川まみ(院2) LIU JIN(院2) HSIEH SHENG-HUNG(院2)

曲目解説

ファンファーレとしては珍しい編成ですが、演奏会の頭を飾るべく華やかに仕上げました。題名の'Far-fetched'はfanfareと語感が似ている単語から選びました。新大陸であるアメリカから帰ってきたイギリス人が、尾ひれをつけて話をしたこと由来し、日常会話では、ありそうもない、起こりそうもない、といった意味で使われます。

この時代を生きぬくために突飛な発想も必要なのではという思いから題名を付けました。対照的に曲想としてはとても大衆的な雰囲気を目指しました。再現部の頭でこれまで下行して解決する音が多かったのに対して、上行して解決します。気分を上向きにするためにも大事な場面で上行の音型を入れました。

吉田健人

'Far-fetched'作曲家プロフィール (吉田 健人)

愛知県出身。尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科作曲コース卒業。作曲を坂田晃一、外山和彦、市川景之の各氏に師事、作曲理論を愛澤伯友、大江千佳子の各氏に師事、ピアノを細田秀一、守屋純子の各氏に師事、クラシックギターを高須勉氏に師事。尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科第13回定期演奏会にて今村能氏指揮により管弦楽曲"Perhaps"を初演。2016年4月より2018年2月まで株式会社サウンドハウスでの営業・海外営業を担当すると共に、YouTubeコンテンツ用の楽曲制作にも携わる。

現在 洗足学園音楽大学・大学院 音楽研究科作曲2年

M.ラヴェル(松下 倫士編曲)/マ・メール・ロアより

M.Ravel(arr.Matsusita)/Ma mère l`oye

この曲は、ラヴェルが親しくしていたゴドフスキ夫妻の2人の子供のために書いたピアノ連弾曲であり、各曲は童話を題材にしている。後に作曲者自身によって管弦楽版に編曲している。本日演奏する

第1・3・4・5曲は、本学講師の松下倫士先生によって編曲されたものである。

第1曲〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉/エオリオ旋法の美しい旋律をフルートが奏でる。

第3曲〈パゴダの女王レドネット〉/5音階による軽やかな旋律がにぎやかに奏される。

第4曲〈美女と野獣の対話〉/高音部に優美な美女の主題、やがて低音部に半音階を用いた野獣の主題が現れる。

第5曲〈妖精の園〉/ゆるやかな美しい旋律から始まり、華やかなフィナーレへと向かう。

(院2年 持田夏希)

弦楽器コース

D.ショスタコーヴィッチ/弦楽四重奏曲第8番 ハ短調 作品110

D.Shostakovich/String Quartet no.8 in C minor,op.110

弦楽器コース出演者

コンサートミストレス・水野 佐知香(教員)

ヴァイオリン・千葉 純子(教員) 中 一乃(教員) 押見 純代(院2) 北川 乃梨子(院2)

木村 蒼(院2) 林 桃子(院2) 山口 亜純(院2) 菅野 稚子(院1)

高橋 沙織(院1) 成田 叶(院1) 瀨 萌香(院1)

ヴィオラ・・・古川原 裕仁(教員) 有福 佑依(院2) 藤岡 瑞季(院2) 大森陸リチャード(院1)

チョウ イチン(院1)

チェロ・・・荒 庸子(教員) 松 稷(音教講師) 友原 安佐子(院2) 有馬 憧(院1)

コントラバス・當仲 絵理(教員) 吉田 智海(院2)

曲目解説

D.ショスタコーヴィッチ/『弦楽四重奏 第8番 作品110』

ショスタコーヴィッチはソビエト連邦時代の作曲家である。彼は、スターリン政権の下、一切の表現を制限され、不本意な社会主義体制賛美のための作品を数多く発表し、本心とは異なる作曲活動に苦悶の日々を送り続けた。この曲は、正にその葛藤の時代に作曲された曲である。1960年6月ショスタコーヴィッチは、当局より、共産党への入党を強要され、不本意ながらも入党を決意し、共産党員になった。その1ヶ月後、7月12日から14日のわずか3日間でこの曲を作曲した。

ショスタコーヴィッチのドイツ語表記である「Dmitri Schostakovich」より、D-S(Es)-C-Hの音形が全曲の中心主題として現れ、彼自身のことを指している。また、彼自身の旧作から主題を多く引用しており、それらで自身の過去の体験を表し、自身の自伝的な構想をしている。

表向きには「ファシズムと戦争の犠牲者」に献呈するようになっているが、実際は、圧政により精神的荒廃に追い込まれた自身への自虐的な独白である。ショスタコーヴィッチの親友にあてられた手紙によると、涸れ果てんばかりの涙と苦しい気持ちで作曲へ当たったことが綴られている。

吉田 智海(院2)

ギターコース

フィリッポ・グラニアーニ/三台の ギターの ための三重奏曲 作品12より第一楽章アレグロ

Filippo Gragnani/Trio für drei Gitarren Op.12~I Allegro

ギターコース出演者

第一ギター：大貫 淳也 (院2)

第二ギター：鈴木 大介 (教員)

第三ギター：原 善伸 (教員)

曲目解説

フィリッポ・グラニアーニ(1768-1820)はイタリアに生まれ、のちにパリで活躍した作曲家である。作品にはギターのための独奏、二重奏、三重奏のための作品の他、ヴァイオリンやフルートなどとの室内楽曲がある。

本日演奏される三本のギターのための三重奏曲 Op.12 は古典期の貴重なギター三重奏のレパートリーとして親しまれている。時間の関係で第1楽章(ニ長調・ソナタ形式)のみの演奏となるが、第1ギターと第2ギターの掛け合いを第3ギターが支える作風となっている。

和楽器

松尾祐孝/＜天空幻想Ⅱ＞～篠笛と箏の為に～（2021 / 新作初演）

Masataka MATSUO 《Cosmic Fantasy II》 Cosmic Fantasy II for Shinobue and Koto
(2021 / world premiere)

和楽器 出演者

篠笛：FENG RUI 馮蕊（院1）

箏：WU SHANGMEIYUE 吳尚美婭（院2）

曲目解説

大学院和楽器専攻では学生と教員の協演は日常的に行っているため、近年のスペシャルコンサートにおいては、作曲家書き下ろし作品の新作初演を、特別なプロジェクトとして展開している。今年度は、篠笛専攻1名と箏専攻1名が在籍していることから、その二人が協演して初演できる二重奏作品を用意した。日本の伝統音楽のルーツが中国の西域やモンゴルを経て伝来したことに想いを馳せつつ、青空を見上げるようなイメージを脳裏に描きながら、筆を進めた作品となった。若い二人の留学生（両名とも中国出身）のフレッシュな演奏と東アジアの伝統楽器のサウンドの魅力を、存分にお楽しみください。

（記：松尾祐孝 / 作曲者・和楽器専攻主担当）

ピアノコース

R.ワーグナー（A.Deprosse 編曲）/楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より前奏曲

R.Wagner (arr.A.Deprosse) /Die Meistersinger von Nürnberg "Vorspiel"

2台8手 第1ピアノ プリモ 石津若葉（院2）、セカンド 高城美希（院1）、
第2ピアノ プリモ 江崎昌子（教員）、セカンド 林菜月（院1）

R.ワーグナー（A.Heinz 編曲）/楽劇『トリスタンとイゾルデ』よりイゾルデの愛の死

R.Wagner (arr.A.Heinz) /Tristan und Isolde "Isolden's Liebes-Tod"

2台8手 第1ピアノ プリモ 竹崎聡子（院2）、セカンド 丸橋みなみ（院2）
第2ピアノ プリモ 鳥羽瀬宗一郎（教員）、セカンド 相田実久（院2）

曲目解説

楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は、ワーグナー唯一の喜劇オペラであり、1862年から1867年にかけて作曲された。演奏する【前奏曲】は、“マイスタージンガーの動機”、“芸術の動機”、“愛の動機”など、曲中の重要な「ライトモチーフ」が数多く詰まっており、まさに良いところ取りな楽曲と言える。楽劇『トリスタンとイゾルデ』は、中世宮廷詩人達が語り継いだ2人の悲恋物語をベースに、1857～1859年に作曲された。【愛の死】は死によって成就できない2人の愛の恍惚と陶醉を歌うイゾルデの名場面で奏でられる。この曲はF.リストによるピアノ

ソロ用の編曲も有名だが、本日はハインツによる2台8手編曲で演奏する。

打楽器コース

Rhythmic Ceremonial Ritual / Zachary Cairns

演奏：石川まみ、角田和渉、島津翠、リュウ・ジン、謝昇紘
岡田奈々(修了生)、井手上 達(教員)

Sculpture in wood / Rüdiger Pawassar

演奏：石川まみ、島津翠、謝昇紘 石井喜久子(教員)

Knock and Click / 山本祐介

演奏：石川まみ、角田和渉、島津翠、リュウ・ジン、謝昇紘
岡田奈々(修了生)、石井喜久子(教員)、井手上 達(教員)

曲目解説

Rhythmic Ceremonial Ritual

《チャイコフスキー/くるみ割り人形の「トレバック」》をモチーフに書かれた曲である。プレイヤー達には楽しくて面白い動きや様々なテクニックが要求されており、目で見ても耳で聞いても楽しめる曲となっている。

Sculpture in wood

ABCAの形式で70から80年代のジャズの雰囲気と、ゆったりとしたワルツの要素が含まれている曲でありパートごとの絡み合いが面白い曲である。

Knock and Click

クラシックや現代曲風ではなくジャズやフュージョンの要素を取り入れた「ノリのいい作品」であり、奏者たちにはその「ノリ」が求められ新しい打楽器アンサンブルの曲となっている。

3曲それぞれ、曲調や雰囲気が違うプログラムになっているので楽しんでお聴き頂きたい。

大学院打楽器コース2年 石川まみ

電子オルガン

安彦善博/ TOCCATA

演奏

CHEN YUJIN(院2)

XU JINGWEN(院2)

赤塚博美(教員)

曲目解説 安彦善博作曲/“TOCCATA” for 2 Electronic Organs

1998年洗足学園大学・洗足学園短期大学電子オルガン専攻創設10周年記念「新作コレクション」に於いて初演され、翌年の1999年には、全日本電子楽器教育研究会「エレクトーンのための作品集」でも披露された安彦善博氏の作品である。同氏によると『電子オルガンのための曲としては、この作品は5曲目にあたる。その間に多くの電子オルガン奏者と出会い、その演奏の素晴らしさに目を見張った。音色作りだけでなく、テクニックも素晴らしく、そこで超絶技巧的な曲を書こうと思い、作曲に至った。曲は、緩・急・緩の3つの部分から成る。2度・4度音程から成る音形によって全体は統一されている。』
—同作品集の作曲者の解説より。

音楽コース

L.ボッケリーニ/スターバト・マーテルより
 Luigi Boccherini/「Stabat Mater」
 I. Stabat Mater II. Cujus animam
 III. Quae moerebat XI. Quando Corpus

出演

I. Stabat Mater 池田実来 (2)、板倉春菜 (2年)、櫻井亮太 (演奏補助要員)
 II. Cujus animam 渡辺華子 (1年) III. Quae moerebat 原芽衣 (2年)
 XI. Quando Corpus 渡辺華子 (1年)、壽美玲子 (2年)、ユウ・ハン (1年)

ヴァイオリン・・・林桃子 (院2) 北川乃梨子 (院2)
 ヴィオラ・・・有福佑依 (院2)
 チェロ・・・橋本総司 (演奏補助)
 コントラバス・・・本橋和樹 (演奏補助)
 オルガン (キーボード)・・・岡崎渚沙 (演奏補助)
 指揮：櫻田亮 (教員)

曲目解説

スターバト・マーテルもしくは聖母哀傷 (Stabat Mater) は、セクエンツァ (続唱) 「スターバト・マーテル」に付曲した楽曲である。

第一曲《Stabat mater》、

十字架に掛けられた御子を前に聖母が悲しみに暮れて立っている。

第二曲《Cujus animam》、

キリストの受難を目にした聖母マリアの嘆きが歌われる。

第三曲《Quae moerebat》、

聖母マリアが御子イエスを思う、悲しみのアリアである。

終曲となる第 11 曲《Quand corpus》は、

聖母マリアが御子の死を前に、肉体は滅びようとも、どうか魂は天国に召されますように、との願いを込めて歌う。

作曲者はチェロ奏者としても名高く、弦楽作品を 200 曲以上作曲している

イタリア、ルッカ出身のルイジ・ボッケリーニ (1743-1805) である。

パイプオルガン

全席数	
1 2階	756
3階	225
バルコニー	100
	1,081

座席数	
1 2階	233
3階	64
バルコニー	0
	297

